

令和元年7月8日現在

機関番号：26301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26463399

研究課題名(和文) 周産期の夫婦のCouple Identity形成に向けた実践知を明らかにする研究

研究課題名(英文) Research to reveal practical knowledge for the formation of Couple Identity in perinatal couples

研究代表者

小嶋 理恵子 (Rieko, KOJIMA)

愛媛県立医療技術大学・保健科学部・准教授

研究者番号：20404402

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：カップルアイデンティティとは、夫婦間に生じる親愛の結果により夫婦の連帯性が維持されるという特性がある。その表出の特徴として、「私たちは、親だ」という認識である。医師、助産師・看護師が夫婦の結びつきを強める援助として、夫婦同席での説明、子どもの特徴を示してケアをすることを伝えることで維持できるという特徴があることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

カップルアイデンティティ形成を支援するのは、助産師・看護師などの援助職であるといえる。夫婦間、そしてその夫婦が帰属する地域にも働き替かけて、夫婦や地域の人との交流の場をつくり、妊娠・子育てに夫婦が安心して臨めるような地域の形成をしていくことが次の課題となった。助産師などの援助職は、地域の状況を踏まえ、夫婦間に働きかける援助と、セルフヘルプグループとしての機能を有効に使うために、「われわれ意識」を高める援助が必要だと示唆された。そのため、助産師、看護師は対象が望む援助を行うことが重要であると示唆された。

研究成果の概要(英文)：The couple identity has the property of maintaining the connection of being a couple by the result of the friendship that occurs between the couple. As a feature of the couple's identity, even if we are parents or have children's disability, assistant doctors, midwives and nurses can help the couple get together at the same time as a couple. It has the feature that it can be maintained by explaining and giving care to show the characteristics of the child.

研究分野：社会学・心理学

キーワード：カップルアイデンティティ われわれ意識 助産師の援助 セルフヘルプグループ

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本章での目的は、夫婦間に形成される「私たち」という現象であるカップルアイデンティティについて、どの様な概念なのか構成要素を明らかにするとともに、カップルアイデンティティ形成支援における看護職の役割を明らかにすることにある。

そして、家族・集団の一形態である夫婦には、夫や妻という役割を担う役割アイデンティティ (Burke, Jan, 1999, Burke, 2003)、さらに夫婦という集団の一員であることに帰属するアイデンティティが形成される。この帰属のアイデンティティは、それぞれの自己意識と同情、相互の同一視が含まれた全体性としての「We-ness (われわれ意識)」を形成する。この「われわれ意識」を自己の一部とすることで、他の家族の思考と感情を想像し、親密な結びつきを維持する (G・H クーリー; 1929/1970)。クーリー以降の研究者によって、夫婦間におけるこの概念を表す表現として、「Couple Identity: カップルアイデンティティ」が用いられるようになった²⁾。夫婦の親密な結びつきを維持する機能に関心がもたれた背景には、離婚の増加がある。結婚の満足度は、子供の有無に関わらず時間的経過によって低下するが、第一子の出産は、夫婦間の結婚の満足度を急激に低下させる要因となり、離婚という結果を引き起こすこともある (Belsky, John, 1994/1995, Cowan, Cowan, 2000/2007, Ether, 2010)。つまり、母親・父親という親役割アイデンティティが形成される過程において、夫婦間の親密な結びつきを維持することが難しい状況になりうるということである。他に、夫婦間の結婚の満足度を急激に低下させる要因には、慢性疾患や老いに伴う長期介護もある。また、人によっては、家庭内の役割 (親役割や介護者役割)、職業に付随する役割といった複数のアイデンティティ間において、役割葛藤の状況も生じる (Burke, Jan, 1999: Burke, 2003)。欧米ではカップルアイデンティティに関する研究は、心理・社会学・看護学という分野で研究が進んでいるが、日本ではカップルアイデンティティというキーワードでの研究は見当たらない。しかし、筆者は、看護師・助産師として働く中で、「私たちはこの子の親なんだ。」³⁾ 「僕たちは助産院で産むことにしたから。」⁴⁾ と語る対象者と出会っている。この「私たちは～である。」という表出が、夫婦間にカップルアイデンティティが形成されていることを意味している。本研究は、欧米のカップルアイデンティティの先行文献の検討を通して、看護職におけるカップルアイデンティティの形成・維持に向けた具体的な援助実践を検討していくことを目的とする。カップルアイデンティティ形成を促進する援助の抽出本章では、海外のアイデンティティ尺度の日本語版尺度の開発を行った。fox 氏から父親アイデンティティの尺度の許諾を得たため日本語版父親アイデンティティ尺度の開発も行った。対象は、出産準備教室に訪れた妊娠期女性とその夫である。

日本語版 父親アイデンティティ尺度の開発

研究分担者ととも、Fox から日本語版父親アイデンティティ尺度の開発の許諾を得た。

		回転後の因子行列a				
		因子				
		1	2	3		
芽生え のた	父親との遊びやお出かけに進んで参加する	0.626	0.22	0.156		
	父親として認識されるのがうれしい	0.535	0.265	0.121		
	父親になって、わたしは良い方に変わった	0.526	0.056	0.34		
	夜、子供の面倒を見るより残業したほうがよい。(R)	0.495	0.383	-0.068		
	わたし自身のためにお金を使う前に、子供に何か必要なものがないか自問自答する	0.475	0.003	0.256		
	子供がいることを人に知られるのがうれしい	0.41	0.322	0.292	alpha=.738	
わ2 「こ しと へに 」の 関	知らない人から子供がいるかどうか聞かれるのがわずらわしい(R)	0.053	0.604	0.083		
	たくさんの子供が走り回っていると気分が良くない(R)	0.133	0.559	0.151		
	子供と過ごすときは別の大人がいたほうがよい(R)	0.18	0.539	0.035		
	子供ができる前にやっていた遊びなどができなくて、寂しく思う。(R)	0.38	0.413	-0.132	alpha=.630	
で話 き る を ど 親 共 も と び 有 の し	わたし自身が親になってみて、多数の親と会っていることに気付いた。	0.107	0.033	0.703		
	他の家族の親と子供について話すのが楽しい	0.446	0.232	0.568	alpha=.638	
因子抽出法: 主因子法						
回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法						
a9 回の反復で回転が収束しました。						

日本語版父親アイデンティティ尺度での概念について、研究分担者と検討し、上記左側にあるような尺度名とした。

2. 日本語版カップルアイデンティティ尺度の開発

日本語版のカップルアイデンティティ尺度開発

海外の研究者から許諾を得たカップルアイデンティティ尺度を、共同研究者と日本語に翻訳していった。日本語版カップルアイデンティティの尺度は17項目となった。

この尺度を用いて、妊娠期の夫婦への調査を行った。結果、「施設の出産方針について十分な説明を受けた」「お産が楽しみになった」を含む5項目では、カップルアイデンティティとの正の相関がみられた。

次に、NICU に子どもが入院した親に対するカップルアイデンティティ維持につながる援助として、セルフヘルプグループに着目した。インタビューガイドを用いて調査を実施した。

母親からは、ショックから、子どもが頑張っているのを見て、自分も子どもとともに頑張りたいという心境に代わってきたことを表出していた。また、セルフヘルプグループとの出会いにより子どもへの向き合い方が変わり、子どもの障害も含めて受容していく過程をたどっていたことが明らかになった。助産師は個人へのアプローチだけでなく、同じ立場の親と出会う場を設けて当事者の力を引き出す援助も重要であるということが示唆された。

5. 主な発表論文等

小嶋理恵子 カップルアイデンティティ再構築に向けた看護職の役割とは：文献検討による「われわれ意識」の形成を促進する援助実践に対する考察 立命館大学産業社会論集 51 (3) 135-145

小嶋理恵子 周産期における夫婦間関係性に働きかける援助：助産院助産師の実践についての質的研究、立命館人間科学研究 (29) 35-47. 2014年2月

小嶋理恵子：周産期 DV が生じた夫婦関係の再構築支援を行ったカウンセラーの援助実践からの示唆、日本赤十字北海道看護大学紀要 17. 19-24. 2017.

小嶋理恵子：ハワイアンというエスニックアイデンティティを持つ女性が語る産育習俗文化を継承することの意義、立命館人間科学研究 (36). 43-52. 2017年6月.

小嶋理恵子：アメリカハワイ州 B 島で母乳育児を選択した外国人のケアニーズ 61-69. 2015年3月

柴田長生・小嶋理恵子・他 児童相談所における助産師業務の認知調査一切れ目ない子育て支援と虐待予防のために 心理社会支援研究 (9) 71-82

〔雑誌論文〕 (計6件)

〔学会発表〕 (計5)

小嶋理恵子 夫婦関係 Couple Identity の概念分析 492p 日本科学学会学術集会 492p 2014

ハワイ州で乳幼児を育児する日本人母親が直面した育児の困りごとと母親を支えた支援. 母性衛生 59 (3)

妊娠期女性の夫・パートナーのカップルアイデンティティ形成を促進する因子の抽出. 母性衛生 59 (3) 303-303.

妊娠期女性に形成されるカップルアイデンティティ形成を促進する因子の抽出. 母性衛生 59 (3)

日本人と結婚した外国人女性が A 県 B 島で覚悟を決めた要因. 母性衛生 59 (3)

ハワイ州で妊娠期を過ごした外国人女性が抱いた戸惑いや不安の諸相と対処行動母性衛生 2018

〔図書〕 (計 1 件) 少子化社会と妊娠・出産・子育て 北樹出版

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）
件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：長谷川由香

ローマ字氏名：Yuka HASEGAWA

研究者番号（40614756）

所属研究機関名：関西看護医療大学

部局名：老年看護学

ローマ字氏名：Hidetoshi FURUKAWA

職名：准教授 古川秀敏 関西看護医療大学

研究者番号（10316177）

所属研究機関名：愛媛県立医療技術大学

部局名：助産学専攻科

職名：助教 井上明子（90634402）

関西看護医療大学

研究者番号（10316177）

稲荷陽子

所属研究機関名：愛媛県立医療技術大学

山本美由紀（30587986）

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。